
いたずら

箏月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
いたずら

【コード】
N5913T

【作者名】
箏月

【あらすじ】
こどもものいたずらであり、遊び。

ぼくはいたずらが大好き！
だからよくおかあさんに怒られちゃうんだ。

この前もおかあさんの口紅でおとうさんのシャツにラクガキして
いっぱい怒られちゃった。
ほかにもいろんなことして怒られちゃったんだ。

でもまだバレてないいたずらがあるんだ。
それは、虫にいたずらすること！

ちょっと前にお母さんが黒い虫をつぶすのを見て、
虫には何してもいいんだって思ったんだ。

だから、虫をつかまえたら
足をちぎったり
焼いたり
すりつぶしたり
沈めたり
埋めたり
ほかにもいっぱいいたずらしちゃった。

いたずらすると、虫は動かなくなっちゃうんだ。
ふしぎだなあ。

今日も公園に行くと、いっぱい虫がいたよ！
いっぱいかまえていると、

「ボク」

知らない人に声をかけられた。

「あつちにもっといっぱい虫がいるよ」

……そういえば

「知らない人についてっちゃダメよ！」

って、おかあさんが言ってたなあ。

おかあさんにだまって公園に来たし、今日はもう帰ろう。

「いつしよに行こうよ」

いっぱい虫の入ったバケツを持って立つと、いきなり手をつかまれた！

「はなして！」

ぼくは大きな声を出した。怖いよ！

「いいから黙って来い！」

知らない人はまたぼくの手を引っぱる。いたいよ！はなしてよ！

もう一度大きな声を出したかったけど、出なかった。いたいよ、こわいよ……。

バケツに入れた虫が見えて、
ぼくが足をちぎったカマキリを思い出した。

引っぱられるだけでも痛いのに、ぼくは……。

「……おい！何してんだ！」

「ちっ！」

知らない人はぼくの手をはなしてどこかに行っちゃった。
そのすぐ後で、となりの家のおじさんが来た。

「何で一人で公園に？危ないだろ！」

それからおじさんと家に帰って、おかあさんに怒られちゃった。

虫をつかまえに行ってたって言ったただけだから、

あのいたずらはバレなかった。

けど、もうやめようって思った。

痛いもんね。

ぼくはつかまえた虫を、逃がしてあげた。
ばいばい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5913t/>

いたずら

2011年10月9日05時01分発行